

日本を知るために

渥美 直紀



渥美国際交流奨学財団も設立以来8年が経過し、渥美奨学生も20数ヶ国から90名を超える規模となり、それぞれ世界の各国の様々な分野で活躍しています。この財団は、世界各国からの優秀な留学生を日本に受け入れ、日本人との交流を通して、日本人の考え方、価値観を理解してもらうと共に、将来そのネットワークを世界に拡げることにより、日本の国際化に貢献することを設立目的としています。今後も、多くの渥美奨学生が日本で学びながら、日本に対する理解を深め、そのネットワークが世界規模で広がっていくことを期待しています。

ところで近年、政治、経済、社会、全ての面で日本のグローバル化は急速に進展しましたが、このことにより、これまで以上に他国との間で深刻な問題が表面化してきています。渥美財団には中国や韓国からの留学生が圧倒的に多いのですが、日中間、日韓間にも様々な事件が次から次へと起きています。

これらはそれぞれが難しい問題点をたくさん抱えており、簡単には解決は望めません。しかしながら、少し長い眼で見れば、お互いに相手国に関心を持ち、その文化、歴史、物の見方、考え方に触れながら理解を深めていくことがますます大事になってくると思います。渥美財団の奨学生の皆さんには、こういう観点からも日本への理解を一層深めて頂きたいと思いますが、さて翻ってそれでは理解してもらいたい日本とは何かという問いについて、きちんと答えられる日本人がどのくらいいるかということになると、私を含めて極めて怪しいものだということに気がきます。

先日も現在アメリカ留学中の次女が手紙の中

で「海外に出るとすごく日本を知らない自分がかっかりします。日本人はもっと日本の文化やルーツを知るところから始めなきゃね。日本は外から見るととてもいい国に見えるんだけどね。」と書いてきました。確かに、単一民族で島国に住む日本人は、これまでその文化、歴史、価値観について考えたり、外に向かって発信したりする必要がありませんでした。その上、ビジネスの分野を中心として、いわゆるグローバルスタンダードが浸透し、好むと好まざるを問わず、これを受け容れなければならない場面も増えてきました。その結果、日本人の行動様式、考え方も今までとは変化しつつあることは事実です。しかしながら、そういう中でも守っていかねばならない日本人としての伝統、文化、価値観、いわゆるアイデンティティ（日本人としての生き方）があるはずで、いくら外国から来た人に日本のことを理解して帰ってもらいたいと願っても、肝心の日本人が日本のことを知らなかったり、日本人であることに誇りや愛着を持っていなければ、話になりません。他国の人々に対して、日本の文化、価値観を説明出来るようになることは、今後ますます重要性を増してくると思われれます。

我々日本人も、我が国から学ぼうとして日本を選んで来てくれた留学生との交流を深めることによって、自らのアイデンティティを探り、グローバル化への適応とアイデンティティの尊重という二つの事を両立させ、生きていかなければならないと痛感しております。

（鹿島建設専務取締役）